

学校の研究授業の公開と研究発表会は県内各学校に益するところ絶大なるものがあつた。

全体を通じて最も努力が払われたのは、各学年別の目標および内容を、どのように実際の取扱いに現すかということと、到達基準の設定であつた。各校それぞれ運動能力の到達目標は一応できたが、34年度はさらに実施を願ひ、全県下にも実施し本県としての目標を立てたい。それにしてもこれらの学校の資料は貴重なものとなつた。

E 学校ダンス実技講習会

この講習会は、小中学校の体育指導担当の教師を対象として、リズム運動、ダンスの実技研究をなし、教材の発展的取扱いに力を注ぎ、学校体育の向上をはかるものである。

- a 期 日 9月13・14日
- b 場 所 若松市立一箕小学校
- c 参加者 約30名
- d 講 師 福島大学学芸学部助教授 西間木リツ

本県では比較的學校ダンスの指導者が足りない現状から、この実技講習会には大きな期待をかけていたものであつたが、時期的に思ひしくなつたので、受講者は少なかつた。また講習内容は、改訂指導要領の解説をも含めたものであつたが、この趣旨が徹底しないきらいがあつた。今後は少くとも県内数カ所で、これが向上をはかるよう計画したい。

F 第1回東北体育研究大会

東北地方を一九とした体育関係者の参集のもとに、この大会を開催し、それぞれ専門の立場から、学理的研究と実践方法的研究を行い、もつて保健体育の向上をはかる。

- a 期 日 10月11日
- b 場 所 福島県教育会館
- c 特別講演 順天堂大学教授 野口源三郎
演題「改訂学習指導要領について」
- d 研究発表 9名
- e 協議題
 - (1) 豊かな社会性の発展を期す体育指導は如何にあるべきか
 - (2) 運動能力測定における到達目標の設定について
- f ミンボジウム
「体育と道徳教育について」
- g 参会者 約300名
- h 研究集録・日程・役員・講演内容・研究発表要約等につき集録を編集 1部100円

この大会は、小学校から大学までの指導者の集会で、いわば体育学会的なもので、学理的な研究発表

に終り現場の切実な問題とかけ離れがちであるが、本大会は身近かなものをとらえ誠に有効適切であつた。特に改訂学習指導要領の講演は有意義であつた。

G 冬期大学体育指導者実技講習会（スキー）

積雪地方の教職員に、スキー実技の研修をなし、もつて学校体育の向上をはかるのがこの講習会のねらいである。

- a 期 日 昭和34年1月16～18日3日間
- b 場 所 沼尻スキー場
- c 参加者 約30名
- d 講 師 福島大学学芸学部
教 授 菊地哲男
助教授 鈴木勝衛

多少雪積量は少なかつたが、講習内容は非常に適切であり、受講者は会期を1日延長の希望もあつた。単位授与の計画はなかつたが、受講者からこの点についても希望があつたので今後は期間とこれについて検討したいと考えている。

H 小学校教育課程の移行措置について

- a 学校体育の指導で最大の努力を払つたのは、改訂指導要領の趣旨徹底にあつた。各出張における伝達講習会、自主的団体の講習会特に研究指定校の中間指導および中間発表会等、あらゆる機会をとらえて、これが解明に努めた。
- b 昭和34年2月6日、移行措置についての文部次官通達が出されたので、「体育」新聞を発行して、これが移行方法の具体的事項について解説をなし各学校に配布した。今後はさらに学習指導の実際について指導をしていく計画である。特に小中学校の改訂指導要領の解説書を編集発行する予定である。

5. 学校給食推進のための事業

文部省の「昭和33年9月30日現在学校給食実施状況調査」資料によると東北地方の学校給食普及状況は山形県を除いては全国平均普及率を下回りまた他の地方の都府県と比較しても非常に低位の現状にある。

ちなみに本県における普及状況についても全国的にみた場合非常に低調であり（別表1参照）また同じ県内でもその普及率が方部別により相当の地域差がみうけられるのが実情である。（別表2参照）

したがって昭和33年度保健体育課努力事項として学校給食関係では「学校給食の普及充実」を重点施策にとりあげ、これにともなう各種事業を推進し、県内における普及充実に拍車をかけてきた結果、最近とみに学校給食実施の気運が各地にもりあがつて